

公開講座 神奈川の海を学ぶ 2016

受講者募集
参加無料

神奈川の海は、横浜港をはじめとした都市部の海、三浦や西湘地区の自然豊かな海、さらに多くの人が集う湘南海岸など、様々な特徴を持っています。しかし、その自然や生物たちは、まだまだ知られていないことがたくさんあります。

日常では目にしない神奈川の海をご紹介しますとともに、これら親しみある海を持続的に「利用」し、「保護」していくために、現代日本の海洋政策のキーワードである総合的海洋管理の視点から公開講座を開催します。

■ 講義日程

【第1回】5月18日(水) 19時～21時

神奈川の海 – 自然・環境・それを取り巻く社会 –

水井 涼太(横浜国立大学 統合的海洋教育・研究センター 特任教員(講師))

【第2回】6月1日(水) 19時～21時

深海生物の箱庭「相模湾」

藤原 義弘(海洋研究開発機構 海洋生物多様性研究分野 分野長代理)

【第3回】6月15日(水) 19時～21時

地元の海に潜る – 横浜港の海域環境改善の取り組み –

石井 彰(国際トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会 環境部会長、横浜市立大学 共同研究員)

【第4回】6月29日(水) 19時～21時

都市臨海部における自然再生

古川 恵太(統合的海洋教育・研究センター 客員教授、笹川平和財団 海洋政策研究所 主任研究員)

【第5回】7月13日(水) 19時～21時

海の境界線を考える – 東京湾・日本・世界 –

中原 裕幸(横浜国立大学 統合的海洋教育・研究センター 客員教授、海洋産業研究会 常務理事)

※詳しい内容については裏面をご覧ください。

■ 会場

クイーンズスクエア横浜 クイーンモール3階

一般社団法人横浜みなとみらい21 プレゼンテーションルーム(みなとみらい線みなとみらい駅徒歩3分)

■ 申し込み方法

横浜国立大学ホームページからお申し込みください。【トップページ→産学・社会連携→生涯学習公講座のご案内】
または、下記までFAXでお申し込みください。(講座名、氏名・フリガナ、性別、年齢、住所、電話番号、職業、次年度以降の公開講座案内の送付希望の有無をお知らせください。)

■ 問い合わせ先

横浜国立大学 総務部 広報・渉外室 広報課 TEL:045-339-3016/FAX:045-339-3179

■ 講義要旨

【第1回】 神奈川の海 – 自然・環境・それを取り巻く社会 –

水井 涼太（横浜国立大学 統合的海洋教育・研究センター 特任教員（講師））

神奈川県は東京湾、相模湾、相模灘と3つの海に面し、砂浜や磯など様々な環境を持った海があります。そこには、世界有数の人口密集地の近隣にありながら多くの生物が暮らしています。また、多くの人々がレジャーをはじめ、様々な形で利用してします。これら多様な側面を持つ神奈川の海を紹介するとともに、海の自然、環境、生物や生態系など海を知る上での基礎的な知識、社会や人と海の関わり方、さらに最近の海のトピックや世界的な問題などを紹介し、海を楽しみつつ、持続可能な人と海との関わり合いを持った社会を考えます。

【第2回】 深海生物の箱庭「相模湾」

藤原 義弘（海洋研究開発機構 海洋生物多様性研究分野 分野長代理）

相模湾は日本でも有数の生物多様性に富んだ海です。その面積は我が国の水域全体の0.1%以下であるにも関わらず、国内に知られる海産魚類の約3分の1が生息しています。その要因の1つは相模湾の環境の複雑さです。駿河湾に次いで我が国2番目の深い湾には、北から流れ込む冷たい親潮と南から流れ込む温かい黒潮が入り混じって多様な環境が形成されています。また相模湾はプレート活動の活発なところで、フィリピン海プレートが北アメリカプレートの下に沈み込んでいます。その活動に伴って湾内には海底から硫化水素やメタンが沸き上がる湧水現象が知られ、それら化学物質を利用する化学合成生態系が日本で最初に発見された場所でもあります。深海の魅力がギュッと詰まった相模湾の世界を映像を交えて紹介します。

【第3回】 地元の海に潜る – 横浜港の海域環境改善の取り組み –

石井 彰（国際トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会 環境部会長、横浜市立大学 共同研究員）

昭和40年初め横浜港の水質汚濁は頂点に達していました。その後、公共下水道の整備や工場排水の規制等により、水質は大幅に改善しましたが「昔のようなきれいな海」には戻っていません。平成21年、折しも横浜市は開港150周年を迎え、山下公園前海域をスイム会場とする国際トライアスロン大会が開催されることになり、海域のより一層の水質改善が求められました。これに対処するため海底地形や水質、生物など調査を進める中、地元の海、横浜港に潜るチャンスを得ることができ、そこで得られた知見がその後の海域環境の改善提案に結びついてきたことを報告します。

【第4回】 都市臨海部における自然再生

古川 恵太（統合的海洋教育・研究センター 客員教授、笹川平和財団 海洋政策研究所 主任研究員）

平成23年に横浜駅東口から徒歩5分、みなとみらい21地区の東端、帷子川に面した場所に高島水際線公園が整備されました。この公園は、「大都市の中においても豊かな自然を安全かつ身近に感じ育てることができる公園」として計画され、川沿いに生態護岸、園内に潮入りの池が配置されました。現在、住民主体の公園愛護会により、月1回の自然体験活動が実施されています。最近では、近隣の小学校の総合学習の時間の活動の場としても活用され、子供たちが地元の海に親しむ入り口にもなっています。この公園整備を事例として、都市臨海部における自然再生の意義、自然科学的検討、法規制と行政判断、運用の諸問題について解説します。

【第5回】 海の境界線を考える – 東京湾・日本・世界 –

中原 裕幸（横浜国立大学 統合的海洋教育・研究センター客員教授、海洋産業研究会 常務理事）

海には、実は目に得ない境界線がいくつも引かれています。たとえば、港湾区域とか漁港区域、海岸保全区域、公園区域などのほか、漁業権区域というものがあります。東京湾を例に取れば、全面積の約6割が横浜港、東京港、千葉港等々の港湾区域で占められています。そして、日本全体に視野を広げれば、12海里の領海と200海里の排他的経済水域(EEZ)という線が日本の周囲に存在します。視野を世界的規模へ広げれば、海のある国すべてが領海、EEZ、大陸棚を持っています。その境界争いも起こっています。これらの見えざる海の境界線をできるだけマップで見える化しながら、海洋政策の一端を一緒に考えてみたいと思います。

■ 会場アクセス

会場：

クイーンズスクエア横浜 クイーンモール3階
(一社)横浜みなとみらい21 プレゼンテーションルーム

アクセス：

みなとみらい線みなとみらい駅 徒歩3分
JR桜木町駅 徒歩10分
市営地下鉄桜木町駅 徒歩10分

クイーンモールの1Fまたは2Fから、[アット!] 3rdの「緑のエレベーター」で3階にお上がりください。

※右図参照

